

必修の基本的事項

基準値を理解すべき検査項目 (基準値を明記しない検査項目)

○ 血液学検査

分類	項目
血球検査	赤血球
	ヘモグロビン (Hb)
	ヘマトクリット (Ht)
	白血球
	白血球分画
	血小板
血小板機能検査 凝固・線溶・	プロトロンビン時間 (PT) (PT-INR を含む)

○ 生化学検査

分類	項目
タンパク分画	総タンパク (TP)
	アルブミン (Alb)
生体色素	総ビリルビン
	直接ビリルビン
酵素、アイソザイム	AST
	ALT
成分	尿素窒素 (BUN)
	クレアチニン (Cr)
糖代謝関連	{随時} 血糖
	空腹時血糖 (FBS)
	HbA1c

分類	項目
脂質代謝 関連	総コレステロール (TC)
	トリグリセリド (TG)
電解質・ 酸塩基平衡	Na
	K
微量元素 重金屬、	Fe

○ 免疫血清学検査

分類	項目
炎症 マーカー	C反応性タンパク (CRP)

○ 生体機能検査

分類	項目
動脈血 ガス分析	pH
	PaCO ₂
	PaO ₂
呼吸機能	経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂)
腎機能	推算糸球体濾過量 (eGFR)

大項目	中項目	小項目
1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム 約2%	ア 医の倫理	a 患者の人権と医療
		b 医療者の倫理（ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言など）
	イ 歯科医師と患者・家族との関係	a 患者中心の歯科医療（インフォームド・コンセント、セカンドオピニオンなど）
		b 患者の権利
2 社会と歯科医療 約13%	ア 患者・障害者のもつ心理社会的問題と背景	a 疾病・障害の概念・構造（社会的関わり）
		b リハビリテーションの理念
		c ノーマライゼーションの理念
		d 国際生活機能分類〈ICF〉
		e 健康格差、健康の社会的決定要因
	イ 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済	a 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法
		b 医療法
		c 介護保険法
		d 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
		e 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種
		f 地域包括ケアシステム
		g 国民医療費
	ウ チーム医療	a チーム医療の意義（多職種連携、医科歯科連携、病診連携を含む）
		b 医療チームの構成員と役割
		c チーム医療における歯科の役割（かかりつけ歯科医、在宅医療、訪問診療）
		d 情報提供
	エ 臨床試験・治験と倫理	a 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針
		b 医薬品の臨床試験の実施の基準〈GCP〉
	オ 医療の質の確保	a 患者満足度
		b 患者説明文書、同意書
		c クリニカルパス
	カ 医療事故の防止	a 医療事故と医療過誤
		b 医療事故の発生要因
		c 患者の安全管理（誤飲、誤嚥、誤薬、出血、外傷、感染、被曝、目の保護）
		d 医療者の安全管理
		e アクシデント、インシデント（ヒヤリハット）、医療事故報告書、インシデントレポート、医療事故の発生要因分析
		f 医療安全対策
		g 医療事故調査制度
	キ 院内感染対策	a 標準予防策〈standard precautions〉、感染経路別予防策
		b 個人用防護具〈PPE〉
c 薬剤耐性〔antimicrobial resistance 〈AMR〉〕と抗菌薬の適正使用〔antimicrobial stewardship 〈AMS〉〕		
d 医療廃棄物処理		
e 感染対策委員会、感染制御〈対策〉チーム〈ICT〉		

大項目	中項目	小項目
	ク 医療裁判	a 医事紛争、賠償 b 医療訴訟（刑事裁判、民事裁判）
	ケ 医薬品・医療機器による健康被害	a 副作用・有害事象への対応（報告義務、治療、補償）
	コ 血液・血液製剤の安全性	a 保管、管理
	サ 診療録、診療情報の記録と管理	a 診療に関する記録（診療録、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、歯科技工指示書、模型）の管理・保存
		b SOAP（主観的情報、客観的情報、評価、計画）
		c 個人情報の保護、情報倫理およびデータ保護に関する原則
		d 診療情報の開示
3 予防と健康管理・増進 約5%	ア 健康増進と疾病予防	a プライマリヘルスケア
		b ヘルスプロモーション
		c 行動変容
		d 国民健康づくり対策
		e メタボリックシンドローム対策
		f 歯科口腔保健の推進に関する基本的事項
	イ 地域保健にかかる法規と制度	a 地域保健法、健康増進法、歯科口腔保健の推進に関する法律
		b 母子保健
		c 学校保健
		d 産業保健
		e 成人・高齢者保健
		f 障害児・障害者保健
		g 精神保健
		h 健康危機管理
	ウ 予防手段	a フッ化物応用
		b 保健指導
		c 口腔清掃（歯磨剤を含む）
	エ 口腔健康管理	a 口腔衛生管理
		b 口腔機能管理
	4 人体の正常構造・機能 約15%	ア 全身・口腔の構造と機能
b ゲノム、遺伝子、染色体		
c 細胞・細胞小器官の構造・機能		
d 組織 [上皮組織、結合（支持）組織（血液を含む）、筋組織、神経組織]		
e 器官系 [骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]		
f 代謝系（代謝、栄養）		
g 免疫系（免疫系担当細胞・臓器、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫）		
イ 全身・口腔の生態系		
a 微生物の構造・一般性状		
b 常在微生物叢		
c ブラーク（口腔バイオフィルム）		

大項目	中項目	小項目
5 人体の発生・成長・発達・加齢変化 約5%	ア 人体の発生	a 配偶子形成、排卵、受精、着床、胚子期（二層性胚盤、三層性胚盤、胚盤胞）、胎児期
	イ 人体の発育	a 発育区分(胎生期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)
		b 成長・発達(形態的・生理的変化)の特徴(身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達)
		c 小児の生理的特徴
	ウ 口腔・顎顔面の成長・発育	a 歯・歯列・咬合の発育(発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢)
		b 頭蓋骨(顔面骨を含む)の成長の特徴(成長の時期、骨形成様式)
		c 口腔機能の発達
	エ 人体の加齢変化(老化)	a 細胞・組織・器官の形態的変化(口腔および顎骨を含む)
		b 高齢期の生理的特徴・精神的特徴
	6 主要な疾患と障害の病因・病態 約12%	ア 疾病の概念
b 先天異常・発育異常		
c 細胞・組織の損傷と修復		
d 炎症		
e 感染症		
f 免疫異常、アレルギー		
g 腫瘍・腫瘍類似疾患		
h 循環障害		
i 精神・神経疾患		
j 薬物・放射線の影響		
イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念		a 歯の硬組織疾患
		b 歯髄疾患、根尖性歯周疾患
		c 歯周疾患
		d 不正咬合
		e 歯の喪失に伴う咀嚼障害
		f 摂食嚥下障害
		g 言語障害
		h 先天異常・発育異常
		i 外傷
		j 歯性感染症
		k 嚢胞、腫瘍、腫瘍類似疾患
		l 顎関節疾患
		m 口腔粘膜疾患
		n 唾液腺疾患
		o 神経疾患
		p 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患
q 薬物・放射線による有害事象		
r 精神・心身医学的疾患		

大項目	中項目	小項目
7 主要症候 約10%	ア 全身の症候	a 発熱、発汗、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、喘鳴、頻脈、徐脈、不整脈、血圧異常、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、摂食嚥下障害、誤嚥、悪心、嘔吐、下痢
	イ 口腔・顎顔面領域の症候	a 基本的症候 [疼痛 (自発痛、打診痛など)、腫脹、腫瘍、潰瘍、色調、出血、瘻、触診の異常 (硬さ、熱感を含む)、機能障害 (開口・閉口障害を含む)]
		b 歯の硬組織の症候 (齶蝕、歯の損耗、着色・変色、亀裂、破折)
		c 歯髄・根尖歯周組織の症候
		d 歯周組織の症候
		e 歯列・咬合の症候 (不正咬合)
		f 口腔粘膜の症候
		g 舌の症候
		h 顎骨の症候 (形態の異常、偏位)
		i 顎関節の症候 (関節痛、関節雑音、運動障害)
		j 筋の症候 (筋痛、圧痛、運動麻痺、関連痛)
		k リンパ節の症候
		l 唾液腺の症候
		m 感覚異常 (味覚、体性感覚)
	ウ 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候	a 貧血に伴う症候 (平滑舌、舌炎など)
		b 出血性素因に伴う症候 (歯肉出血、抜歯後出血など)
		c 急性白血病に伴う症候 (歯肉出血など)
		d ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染症・後天性免疫不全症候群 (AIDS) に伴う症候 [Kaposi (カポジ) 肉腫、カンジダ症、歯周疾患、毛状 (様) 白板症など]
		e ウイルス感染に伴う症候 (水疱など)
		f 結核・梅毒に伴う症候 (粘膜斑、潰瘍など)
g 金属アレルギーに伴う症候		
h 糖尿病に伴う症候 (口腔乾燥、歯周疾患など)		
i 臓器・造血幹細胞移植に伴う症候 [歯肉出血、移植片対宿主病 (GVHD) など]		
j 脳血管・神経・筋疾患に伴う症候 (摂食嚥下障害など)		
k 他臓器癌に伴う症候 (遠隔転移など)		
l 認知症患者、要介護高齢者にみられる症候 (カンジダ症、口腔乾燥、摂食嚥下障害など)		
m 口腔疾患に由来する全身の症候 (掌蹠膿疱症など)		
エ 薬物に関連する口腔・顎顔面領域の症候	a 歯の変色、歯の形成不全、歯肉肥大 (歯肉増殖)、多形 {滲出性} 紅斑、口腔粘膜炎・口腔粘膜潰瘍、菌交代症に伴う症候、顎骨壊死、唾液分泌量減少・増加、感覚異常	
8 診察の基本 約7%	ア 診察のあり方	a 安全と感染への配慮
		b 心理・社会面への配慮 (プライバシー、尊厳)、苦痛への配慮
	イ 基本手技	a 視診、触診、打診、聴診
		b 患者の体位 (立位、座位、半坐位、仰臥位、側臥位)
		c 術者の姿勢・位置

大項目	中項目	小項目
	ウ 医療面接	a 意義、目的（医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加）
		b 自己紹介、患者の確認
		c マナー（身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応）
		d 聴取事項（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望）
		e 患者への説明・声かけ・例示
	エ 全身の診察	a 機能的な評価（姿勢、歩行）
		b 意識状態、精神状態、栄養状態、認知機能
		c バイタルサイン（呼吸、脈拍、血圧、体温）
		d 身体的な評価〔身長、体重、体格指数（BMI）〕
	オ 口腔・顎顔面の診察	a 顔貌、顔色、皮膚
		b 口腔粘膜
		c 舌
		d 顎骨
		e 唾液腺
		f 顎関節
		g 筋
		h 所属リンパ節（領域リンパ節）
	カ 歯列・咬合の診察	a 歯列弓
		b 咬合状態、咬合支持域、顎堤の対向関係
		c 歯の萌出・数
キ 歯・歯周組織の診察	a 歯と歯冠修復物・補綴装置	
	b 歯髄・根尖歯周組織	
	c 歯周組織	
9 検査・臨床判断の基本 約11%	ア 意義と目標	a 診断
		b 治療効果の判定、治療経過の評価
		c スクリーニング、医療情報の収集
	イ 検査の安全性	a 実施の説明（合併症、リスクを含む）
		b 患者・検体の確認
	ウ 基準値と結果の解釈	a 基準範囲の概念
		b 生理的変動、異常値と原因
		c 性差、年齢差
		d 症候、病歴（既往歴、薬物）との関連
	エ 検体検査の種類	a 一般臨床検査
		b 血液学検査
		c 生化学検査
		d 免疫血清学検査
		e 微生物学検査
		f 遺伝子検査

大項目	中項目	小項目
	オ 口腔・顎顔面の検査	a 歯の検査
		b 歯周組織の検査
		c 舌・口腔粘膜の検査
		d 顎関節の検査
		e 筋の検査
		f 唾液腺の検査
		g 顎骨の検査
		h 口腔機能の検査
		i 口腔衛生状態（補綴装置の衛生状態を含む）の検査
		j 口臭の検査
		k 感覚の検査
	カ 画像検査	a 放射線の性質と作用
		b エックス線撮影装置、検出器、撮影補助器材
c 放射線の防護・管理		
d エックス線撮影（口内法エックス線撮影、パノラマエックス線撮影）		
e CT（単純、造影）、歯科用コーンビームCT		
f MRI（単純、造影）		
g 超音波検査		
キ 病理学検査	a 細胞診	
	b 組織診	
ク 根拠に基づいた医療（EBM）	a 患者への適用	
	b システマティックレビュー、メタ分析（メタアナリシス）	
	c 診療ガイドライン	
	d 臨床疫学的指標（アウトカム指標、相対危険度、寄与危険度、オッズ比）	
	e 費用対効果分析	
10 初期救急 約4%	ア 救急患者の診察	a 救急処置を要する症状および病態（心停止、失神、ショック、けいれん、頭痛、運動麻痺、呼吸困難、胸痛、アレルギー症状、誤飲、誤嚥）
		b 全身状態の評価と疾患・病態の鑑別
	イ 救急処置	a 一次救命処置（BLS）
		b 静脈路確保、酸素療法、救急医薬品
11 治療の基礎・基本手技 約14%	ア 治療の基本	a 意義と目標（アウトカム）
		b 種類と特性（原因療法、対症療法、保存療法、根治療法、緩和療法、支持療法）
		c 治療の場〔外来、入院、在宅医療（歯科訪問診療を含む）〕
	イ 小児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療	a 治療環境
		b 患者の体位
		c コミュニケーション
ウ 器械の安全な取扱法	a 歯科用ユニット	
	b 治療に用いる基本的器材	

大項目	中項目	小項目
	エ 消毒・滅菌と感染対策	a 消毒・滅菌法
		b 手術野の防湿・消毒、清潔操作
		c 手術室
		d 標準予防策〈standard precautions〉、感染経路別予防策
	オ 注射法の種類	a 皮内
		b 皮下
		c 筋肉内
		d 静脈内
	カ 麻酔法	a 局所麻酔
		b 全身麻酔
		c 精神鎮静法
	キ 創傷の処置	a 洗浄、消毒
		b 止血
		c 縫合
	ク 膿瘍の処置	a 穿刺、切開、ドレナージ
	ケ 歯・歯周組織に対する基本的処置	a 抜歯
		b 歯の硬組織疾患の治療
		c 歯内療法
		d 歯周治療
		e 歯の欠如・欠損の治療
		f 不正咬合の治療
	コ 薬物療法	a 薬理作用（薬力学、主作用および副作用を含む）
		b 薬物動態
		c 薬物投与（連用と併用を含む）
	サ 栄養療法	a 経腸栄養〔経口栄養、経鼻経管栄養、胃瘻（PEG）、腸瘻〕、経静脈栄養
	シ 口腔機能のリハビリテーション	a 咀嚼機能、摂食嚥下機能、言語機能
	ス 患者管理の基本	a 口腔環境の評価（口腔清掃状態、補綴装置の清掃状態、残存歯の状態、口腔粘膜の状態、咬合状態、補綴装置の適合状態、顎堤の状態・対向関係、舌、唾液、味覚）
		b 全身管理に留意すべき疾患・対象（皮膚・粘膜疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液・造血器疾患、腎・泌尿器・生殖器疾患、精神疾患、神経・運動器疾患、内分泌・代謝・栄養疾患、免疫・アレルギー性疾患、感染症、小児疾患など）
c 日常生活動作〈ADL〉、手段的日常生活動作〈IADL〉、Quality of Life〈QOL〉の評価		

大項目	中項目	小項目
	セ 歯科材料・機器	a 基本的性質 b 診療用器械・器具、切削・研削工具、研磨材 c 印象用材料・機器 d 模型用材料、ワックス e 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料 f 歯冠修復・義歯用材料 g 成形技術・機器 h 装着用材料、接着処理 i 歯科矯正用材料・機器 j 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料
12 一般教養的事項 約3%	ア 医学史、歯科医学史 イ 医学・医療に関する人文・科学・芸術・時事問題などに関連する一般教養的知識や考え方 ウ 外国人患者の歯科診療に必要な基本的な英語	